

認定こども園せんだい幼稚園 園長 田原 慎也

ご入園・ご進級おめでとうございます

新しい年度を迎え、4/1(木)に0~2歳児、4/5(月)には3~5歳児の入園式・始業式を行いました。あらためてご入園・ご進級、心よりお祝い申し上げます。

初めての園生活を迎える子、進級して私服から体操服での生活に変わった子、新たなクラスでいつも通りに淡々と準備を整え、遊びに夢中になる子。状況や背景や思いの違う子どもたちが混ざり合う新年度の園の中はまさに混沌といった様子で始まりますが、同じリズムの園生活が繰り返されていくことで、新入園児も「そろそろ給食の時間かな」「もうすぐ家に帰る時間だな」「同じクラスにはこんなお友達がいるんだ」という見通しが少しずつ立ち始めていきます。

お家の方と別れるのが寂しくてさっきまで涙を流していた子も、ダンゴムシを見つつけたり、こいのぼりを見つつけたり、きれいなお花を見つつけたりなど、自分の興味があるものを見つけると、堰を切ったように「あのね、お家にもね、白いお花があるんだよ。でね、ばあばがね・・・」と、さっきまで泣いていたのが嘘かのようにお話を始めてくれます。さびしい気持ちを上回る「楽しい」、「面白い」にたくさん出会えるように、そして、「楽しい」、「面白い」が、「なんでだろう?」「こうしてみたらいいんじゃない?」といった遊びを通した学びへとつながるよう、職員一同これからも努めていきます。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

子どもは「自己中心性」と呼ばれる幼児期特有のもののお考え方をします。例えばかくれんぼをしているときに、本人は精一杯隠れているつもりでも「頭隠して尻隠さず」の状態になっているのがよい例です。自分の目で見える景色・自分が感じる事がすべてであって、相手の立場に立って考える力はまだまだ発達途上中なのです。

友達とのやり取りの経験が少ないと、なおさら相手の立場を無視して、自分の立場中心に物事を考えるため、物の取り合いやいざこざが生じます。集団の中ではいろんな子の主張がかみ合わず、いざこざや喧嘩で遊びが中断される場面も多くなります。ただ、このような経験をすることで、いつも自分の思い通りにいくわけではないことを知り、相手の立場や気持ちに目を向けるようになっていきます。もちろん「いざこざ」がないにこしたことはないのですが、「いざこざ」の中から争いをしない方法を学んでいくのです。むしろ大人が、トラブルが何も起きないように取り繕うことは、子どもたちが自己中心性から抜け出す機会を削ぐことになりかねません。仲間と共に協力したり、楽しんだりする面白さを感じられる子どもたちへと育てていくために、いざこざの壁を乗り越えていく後押しをしたいと考えています。(気になることがありましたら遠慮なくご相談ください。)

写真: 上より、①【年少】入園式、②【1歳児】保育初日、③【年中】虫を図鑑で調べる、④【年少】初めての給食、⑤【年長】スライム遊び、⑥【年長】お米の種もみまき

